新春特集

新年に寄せる思いと 多久市への期待

おめでとう！を力に

孔子様の教え『論語』の一節に「学びて時に之を習う　亦（また）　説（よろこ）ばしからずや」という言葉があります。『論語カルタ』にも引用されているこの言葉は、学んで練習するとすっかり自分のものになってくるので、とても嬉しいという意味。市内には、この言葉を実践し、自己研鑽や社会貢献に努力されている方が多くいらっしゃいます。

２００９年の年頭にあたり、自身の喜びにつなげ、更なる励みや力にされている方々に登場していただき、これまでの歩みやこれからの思い、多久市への期待などを語っていただきました。

『１年の計は元旦にあり』や『思い立ったが吉日』などの言葉もあります。みなさんの今年の目標はどんなことですか？何事を始めるのも遅すぎることはなく、好奇心や探究心をもって、チャレンジしたことが、みなさんの人生に広がりや豊かさをもたらすことでしょう。
そして、人や地域が喜び、潤う２００９年にしましょう。

佐賀県人権擁護委員会委員として約19年の活動が顕著で2008年秋の褒章「藍綬褒章」を受章。

寺の坊守や保育園の副園長としての家業など多くの経験を活かし、昭和55年から平成11年まで人権擁護活動に従事しました。お話を頂いた当初は、自分にできるのかと不安でしたが、私の苦労話や助言が役に立つならばと、引き受けました。今になれば、させて頂いてよかったの一言。教えの多い、人生勉強でした。

今回、新聞に掲載された私の名前を見て電話が入り、お祝いの言葉に添えられた「あの時、悩みを聞いてもらっただけで、足が軽くなって帰りました」は、褒章に勝る嬉しさを感じました。平穏無事な世の中が理想ですが、生きている限り、ひとりでは解決できない悩みもそれぞれ。そんな時は人権擁護相談を活用して、少しでも軽減してほしいです。今があるのは、多くの方や家族のおかげ。

歳を重ねても夢や希望を持ち続け、趣味の俳句や川柳で文学賞にチャレンジしたいです。
もう少し活気があり、もっと元気な多久市になるといいですね。

▶俳句仲間の作品を詠む不二見さん

◇不二見恵美（ふじみえみ）さん（北多久町多久原）

県のＪＡ青年部協議会が主催する2008年度『手作り看板コンクール』で、県内の80作品から最優秀賞に輝き、全国審査にも進んだ。

私達は、ＪＡさが青年部多久中央支部（南多久、北多久）に所属し、町内で農業に従事する専業農家です。ＪＡ青年部は地域農業の担い手として力を結集している仲間です。

米麦、果樹、野菜生産や畜産経営などそれぞれが誇りを持って取り組む傍ら、技術交流や地域活動をしており、みなさんに馴染み深いのは、地区内の子供たちに田植えや稲刈り体験を指導する学童農園やこの看板運動だと思います。

看板を通じて、食料や農業の重要性を呼び掛けているもので、仕事の合間に集まり、自らが生産する自慢の農畜産物を、みなさんに自信をもって届けている思いを込めて、明るく描きました。毎年、コンクールもあり、15年ほど前に先輩が成し遂げた県１位で全国大会へ！を達成できたこと、県庁であった一般投票審査でも最も支持されたことを、喜んでいます。全国でも入賞し、「がばい旋風」と「多久の名」を馳せることができれば、また嬉しいです。

農業は生産活動を通じて、国土の保全や水資源の涵養や景観形成など、国民の暮らしや環境にとって欠かせない役割を果たしています。地域農業や食、環境を守り、私たちと一緒に農業をする仲間が増えることを望み、多久市が掲げる「住みたい美しいまち多久」のためにも、貢献したいと思います。

（お話は、多久地区の青年部代表も務める左写真の荒谷武彦さん）

◇ＪＡさが
青年部多久中央支部
のみなさん

▲手掛けたみなさんと多久営農経済事業所（南多久町）西側に設置の看板